

みずほマーケット・トピック(2023 年 10 月 6 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

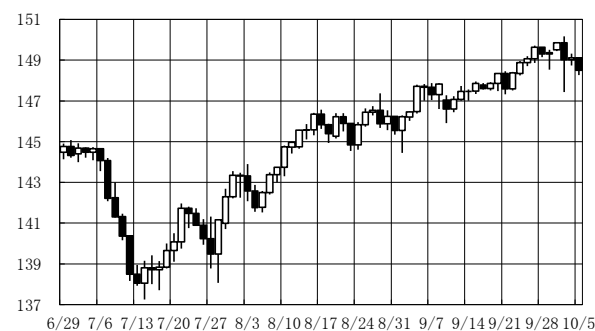
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、節目の150円を突破後に急落も、すぐに値を戻し、その後は上値の重い推移となった。週初2日、149.52円でオープンしたドル/円は、米政府閉鎖が回避されたことに伴うリスクオン相場により、149円台後半でじり高。海外時間は、米金利が上昇する中で続伸も、節目の150円を前に上値の重い推移となった。3日、ドル/円は材料難の中、149円台後半でレンジ推移。海外時間は、米8月JOLT求人件数の強い結果を受けた米金利上昇に合わせ、昨年10月以来の高値となる150.16円に続伸。直後、強烈な円買いが入り、一時週安値となる147.30円に急落も、米金利が続伸する中、149円付近に値を戻した。4日、ドル/円は米金利が高止まりする中、149円台前半でじり高推移。海外時間は、米9月ADP雇用統計の軟調な結果を受け、米金利低下に合わせ149円を割り込んだ。5日、ドル/円は仲値にかけ148円台前半に下落も、円の売りや日株の堅調推移を横目に148円台後半に値を戻した。海外時間は、米新規失業保険申請件数の強い結果を受け149円台に乗せる場面もあったが、米金利が低下に転じる流れに合わせ148円台半ばに反落した。本日のドル/円は、引き続き148円台半ばでの取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、ドル買いが続く中、1.05を割り込むも、その後は値を戻す展開となった。週初2日、1.0564でオープンしたユーロ/ドルは、米金利が上昇する中、デギンドス・ECB副総裁による目先のインフレ鈍化に対し自信を見せる発言が材料視され、1.04台後半に下落した。3日、ユーロ/ドルは、米独金利差拡大で、年初来安値となる1.0448に続落。4日、ユーロ/ドルは、弱い米経済指標を受けた米金利低下や、欧州株の反発を背景に、1.05台に復帰した。5日、ユーロ/ドルは1.05台前半で方向感なく推移した後、デイリー・サンフランシスコ連銀総裁による追加利上げを不要と示唆するハト派な発言を受け、米金利が低下に転じる流れに合わせ、1.05台半ばに上昇した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.05台半ばでの取引となっている。

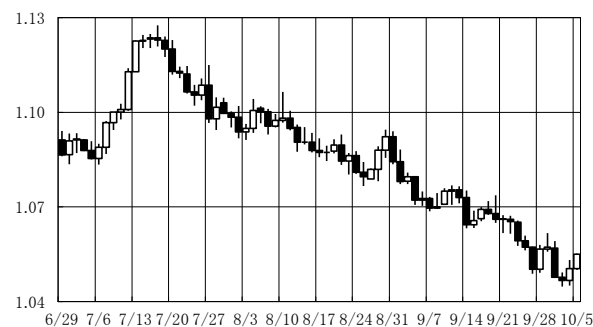
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		9/29(Fri)	10/2(Mon)	10/3(Tue)	10/4(Wed)	10/5(Thu)	
ドル/円	東京9:00	149.34	149.52	149.85	149.18	148.99	
	High	149.50	149.88	150.16	149.32	149.11	
	Low	148.53	149.45	147.30	148.74	148.26	
	NY 17:00	149.35	149.87	149.09	149.11	148.51	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0563	1.0564	1.0479	1.0468	1.0506	
	High	1.0617	1.0592	1.0493	1.0533	1.0552	
	Low	1.0558	1.0477	1.0448	1.0452	1.0500	
	NY 17:00	1.0573	1.0477	1.0467	1.0505	1.0550	
ユーロ/円	東京9:00	157.74	157.94	157.02	156.14	156.50	
	High	158.34	158.41	157.14	156.75	156.73	
	Low	157.43	157.01	154.39	155.83	156.12	
	NY 17:00	158.00	157.05	155.89	156.68	156.69	
日経平均株価		31,857.62	31,759.88	31,237.94	30,526.88	31,075.36	
TOPIX		2,323.39	2,314.44	2,275.47	2,218.89	2,263.76	
NYダウ工業株30種平均		33,507.50	33,433.35	33,002.38	33,129.55	33,119.57	
NASDAQ		13,219.32	13,307.77	13,059.47	13,236.01	13,219.83	
日本10年債		0.76%	0.77%	0.76%	0.80%	0.80%	
米国10年債		4.58%	4.68%	4.79%	4.73%	4.72%	
原油価格(WTI)		90.79	88.82	89.23	84.22	82.31	
金(NY)		1,866.10	1,847.20	1,841.50	1,834.80	1,831.80	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、11日(水)にFOMC議事要旨(9月会合分)が公表予定だ。会合では、政策金利の据え置きを決定。パウエルFRB議長は「これまでの進展に鑑み据え置きを決定した」と説明した。ただ、「適切であれば追加利上げの用意がある」「据え置きは我々が目指すスタンス到達を意味せず」と述べており、利上げの終了宣言は否定、データ次第で追加利上げを匂わせるなどタカ派なスタンスは維持。とはいえ、「利上げに対し慎重に進める」「然るべきと考える状態にかなり近づいている」とも述べており、更新されたドットチャートの仕上がりに合わせて考えても、ターミナルレートに近いことは事実だ。利下げに関しては、「タイミングについてシグナルを送るつもりは決していない」と眼中にないと説明。そもそも、ドットチャートに準拠した24年の利下げ予想の確度も高くはない。FRB自体、米景気の底堅さの原因をよくわかっていないのではないかと。会見では様々な仮説に言及があったが、「十分引き締めの状況かどうかはそこに到達して初めて分かる」と述べている。少なくとも、見通せる将来において利下げを確信できる材料はない。

経済指標では、12日(木)に9月消費者物価指数(CPI)が公表予定。8月の結果は+3.7%(前年比、以下同様)と7月の+3.2%から伸びが加速した。一方、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは+4.3%と7月の+4.7%から鈍化。足許の資源価格再上昇が反映される格好で、非コア項目ではエネルギー価格の下落幅縮小が目立った。他方、コア項目では財、サービスいずれも減速が確認された。FRBが重視する住宅を除いたコアサービス価格も、ブルームバーグの試算によれば+4.05%と7月の+4.15%から鈍化した。ただ、コアを前月比年率で確認すると、8月に+3.3%と加速しており、+2.0%目標に適う伸びにはまだ距離がある。FRBも、安易に利上げ停止の宣言には至れない状況だ。なお、9月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+3.6%、コアベースで+4.1%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
10月6日(金)	・8月毎月勤労統計 ・8月景気動向指数(速報)	・独8月製造業受注 ・米9月雇用統計
9日(月)	—————	・ユーロ圏10月センチックス投資家信頼感 ・IMF世銀・年次総会(15日まで)
10日(火)	・8月国際収支 ・9月景気ウォッチャー調査	・米9月NFIB中小企業楽観指数 ・米8月卸売在庫(確報)
11日(水)	・9月工作機械受注(速報)	・独9月消費者物価指数(確報) ・米9月生産者物価指数 ・米FOMC議事要旨(9月会合分)
12日(木)	・9月国内企業物価指数 ・8月コア機械受注	・独8月経常収支 ・米9月消費者物価指数
13日(金)	—————	・ユーロ圏8月鉱工業生産 ・米9月輸出/輸入物価指数 ・米10月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2023年10月～)】

IMF世銀・年次総会(10月9～15日)

ECB政策理事会(10月26日、12月14日、1月25日)

日銀金融政策決定会合(10月30～31日、12月18～19日、1月22～23日)

FOMC(10月31日～11月1日、12月12～13日、1月30～31日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhoibank.co.jp/forex/egon.html> (Archives) http://www.mizuhoibank.co.jp/forex/egon_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2023年10月5日	「底打ち懸念」も漂う米経済～米金利上昇の考え方～
2023年10月4日	続・インフレを輸入する日本～「人手不足」の波～
2023年10月3日	ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について
2023年10月2日	インフレを輸入する日本～インフレ持続性の考え方～
2023年9月29日	週末版
2023年9月26日	円安シナリオを長続きさせる貿易赤字
2023年9月25日	日銀金融政策決定会合～マイナス金利解除の行方～
2023年9月22日	週末版
2023年9月21日	FOMCを終えて～「2024年こそ利下げの年」という危うさ～
2023年9月20日	23年4～6月期資金循環統計～「貯蓄から投資」の胎動～
2023年9月19日	「欧州の病人」は戻って来たのか？
2023年9月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「事実上の利上げ停止宣言」の読み方～)
2023年9月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年8月分)
2023年9月13日	ECB政策理事会プレビュー～「見送り+ α 」の公算～
2023年9月12日	日銀の政策運営に関するQ&A～読売報道を受けて～
2023年9月11日	7月国際収支の読み方～為替需給変わらず～
2023年9月8日	週末版
2023年9月7日	日本の貿易収支が直面する2つの想定外
2023年9月6日	海外出張で体感した内外価格差について
2023年9月4日	BRICS共通通貨は「いつか来た道」
2023年9月1日	週末版(ECB政策理事会議事要旨と8月消費者物価指数について～9月利上げの行方～)
2023年8月30日	夏を終えても変わらなかった円の独歩安
2023年8月28日	ジャクソンホールで浮き彫りになるインフレに対する「当事者」感
2023年8月25日	週末版
2023年8月24日	ユーロ圏経済の悪化とユーロ相場の現状
2023年8月23日	なぜ購買力平価は使えなくなっているのか
2023年8月22日	力強さが続くユーロ圏の雇用・資金情勢
2023年8月21日	「持たざるリスク」に直面する日本の家計部門
2023年8月18日	週末版(本邦7月貿易収支を受けて～中国不振が阻害する収支改善～)
2023年8月17日	本邦4～6月期GDPの読み方～冴えない内需～
2023年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年7月分)
	年初来安値で確認する円の立ち現在地
2023年8月14日	再投資柔軟化から1年～フランスに並んだイタリア～
2023年8月10日	週末版(アマゾン「プライム」値上げの意味するもの～デジタルサービスへの外貨流出～)
2023年8月9日	緩和持続を約束する実質賃金の低迷～円安の余韻～
2023年8月8日	23年上半期の国際収支統計を受けて～CFベースでは赤字～
2023年8月7日	マイナス金利解除の実現可能性～日銀に迫る円売りゲーム～
2023年8月4日	週末版
2023年8月2日	ユーロ圏経済の近況～経済・物価情勢はECBハト派化を示唆～
2023年7月31日	日銀会合を終えて～今後の課題は「円売りによる挑発」～
2023年7月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～急速に薄らいだタカ派色～)
2023年7月27日	FOMC(7月25～26日)を終えて～現状維持に備え～
2023年7月25日	日銀金融政策決定会合(7月27～28日)プレビュー
2023年7月21日	週末版(正常化が近づくインバウンド需要～労働で稼いだ外貨はどこへ行くのか・・・～)
2023年7月20日	23年上半期の貿易収支を受けて～構造変化を直視～
2023年7月19日	残る円安・資源高の余波～物価「変化率」だけでなく「水準」も～
2023年7月18日	ICEドルインデックスの100割れをどう読むべきか？
2023年7月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年6月分)
	週末版
2023年7月13日	実効ベースで見た為替相場～最強「フラン」と最弱「円」～
2023年7月12日	円高の読み方～自律反発後にどこまで戻るか～
2023年7月11日	経常収支の正しい読み方～符号ではなくキャッシュフローを～
2023年7月10日	イノベーションボックス税制はBrain freezeの処方箋か
2023年7月7日	週末版(金利差拡大で円安が進まない背景～日本株下落とポジションの偏り～)
2023年7月6日	「投機の円売り」と「夏枯れ相場」～進むキャリー取引～
2023年7月5日	ユーロ圏6月消費者物価指数～雇用・資金情勢の逼迫～
2023年7月3日	シミュレーション進む「ドル抜きの世界」～COFERの近況～
2023年6月30日	週末版
2023年6月29日	金融政策と通貨政策、動くのはどちらが先か
2023年6月27日	23年3月末時点の「資金循環統計」を受けて
2023年6月26日	「2005～07年の円安バブル」と現在の違い
2023年6月23日	週末版
2023年6月22日	ECBは利上げ停止後に何をするとみるか
2023年6月21日	「Brain freeze(思考停止)」と研究開発サービス赤字
2023年6月20日	「2030年までに対内直接投資残高100兆円」の現実味
2023年6月19日	日本、「監視リスト」除外の読み方～国力低下の象徴～
2023年6月16日	週末版(ECB政策理事会を終えて～we're not at destination～)
2023年6月15日	FOMCを終えて～追い詰められる円高見通しと年内利下げ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年5月分)
2023年6月14日	日銀はいつ動くのか～円安抑止策としてのYCC修正可否～
2023年6月13日	家計金融資産の「開放」は何を意味するか～骨太の方針～
2023年6月12日	FBIは他国・他中銀から影響を受けるのか？
2023年6月9日	週末版
2023年6月8日	本邦4月国際収支統計を受けて～「新しい赤字」の影～
2023年6月7日	ユーロ圏のインフレ期待について～6月会合プレビュー～
2023年6月6日	「弱い円」への諦観は日本人を動かすか？
2023年6月5日	米5月雇用統計を受けて～遙か遠のく年内利下げ～
2023年6月2日	週末版(コアベースでも鈍化し始めたユーロ圏インフレ率～ハト派転化には十分と言えず～)
2023年6月1日	FRB、6月利上げ見送りの受け止め方～円高到来か？～
2023年5月30日	ユーロ圏の資金・物価情勢～資金は峠、エネルギー環境は脆弱～
2023年5月26日	週末版(32年連続世界最大の対外純資産国の意味～過去最高を記録した直接投資比率～)
2023年5月24日	構造的に薄れるPPPを見る意味～「成熟した債権国」と共に～
2023年5月23日	「世界中が欲しがる財・サービス」は「高嶺の花」～「弱い円」の価値～
2023年5月22日	資産価格が上がっているのか、円が下がっているのか
2023年5月19日	週末版
2023年5月18日	1～3月期GDPを受けて～ベントアップ需要を阻む円安～
2023年5月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年4月分)
2023年5月16日	4月国内企業物価指数を受けて～変化率と水準の違い～
2023年5月15日	新しい外貨流出源～デジタル・コンサル・研究開発～
2023年5月12日	週末版(米連邦債務上限問題について～政府機関閉鎖は一時的な円高材料に～)
2023年5月11日	3月国際収支統計を受けて～インバウンドの功罪～
2023年5月9日	ECB政策理事会を終えて～持続する利上げ路線～
2023年5月8日	FOMCを終えて～利上げ停止でも円安持続という現実～